

発表日	令和元年 10 月 日 ()	発表形式	講演 or ポスター展示
所属・氏名	野毛山動物園 宗正 敏子		
発表名称	野毛山動物園のオグロワラビー (<i>Wallabia bicolor</i>) の過去 5 年間の治療振り返り		
ジャンル	動物園		

はじめに

2019 年度、野毛山動物園は飼育展示係と医療係計 29 名中 9 名が異動/新採用者で、早急な現場の理解が求められた。当園では比較的治療頻度の高いオグロワラビーの疾患の特徴を共有し、飼育管理に役立てたいと考え、過去 5 年間のオグロワラビーの治療を振り返り、5 月の園内の飼育研究会で報告した。

過去 5 年の治療の概略

2014 年度は、飼育中の全 10 頭中 6 頭が治療を受けた。対象は、尿管結石の No.66 が死亡、頬腫れの 3 頭のうち No.75 と 77 は回復し、No.78 が歯周病の発症後肺炎を発症し死亡した。歯周病の No.76 と 79 は回復した。肺炎の No.75 は翌 2015 年度に回復した。

2015 年度は、飼育中の全 10 頭（出生 2 個体含む）中 6 頭が治療を受けた。対象は、肺炎の No.75、脱毛の No.72 と 75、歯周病の No.67、72、76、79 および 80 の 5 頭、頬腫れの No.67、75 および 79 の 3 頭、元気消失の No.79 で、全てが回復した。

2016 年度は飼育中の全 9 頭中 6 頭が治療を受けた。対象は肺炎の No.67、72、76 および 80 が死亡し、No.80 をのぞく 3 頭は肺炎を発症する前に頬腫れ、歯周病の既往歴があった。No.75 の脱毛と喘鳴は回復した。No.77 の頬腫れ、歯周病は一旦回復し、3 月に再び歯周病が発症した。また頸部膿瘍は闘争によるもので、回復した。

2017 年度は飼育中の全 6 頭中 4 頭が治療を受けた。対象は脱毛の No.75、頬腫れおよび歯周病（顎骨炎）の 4 頭うち No.75 と 77 はそれぞれ心不全と腎不全で死亡し、No.79 と 81 は回復した。

2018 年度は飼育中の全 5 頭（出生 1 個体含む）中、No.81 が腎不全で治療を受けたが死亡した。

治療個体のまとめ

表 1 に治療個体の情報をまとめた。雌は 5 頭中 4 頭が死亡し、死亡時の年齢は 2 から 10 歳で、平均 5.8 歳、雄は 5 頭全頭が死亡し、死亡時の年齢は 4 から 8 歳で、平均は 5.4 歳であった。死亡した季節は雌が 6、7、8 月と暑い時期に、雄が 12、3、4 月と寒い時期に集中していた。雌は、現在 12 歳の No.79 は出産歴がなく、10 歳まで生きた No.78 は囊児が死亡して育児歴がなかった。No.80 は 1 頭出産し育児中に 2 歳で死亡した。No.77 は 3 頭出産し育児し、6 歳で死亡した。出産と育児による消耗の影響が懸念された。

5 年間で死亡した 9 頭の死因は、肺炎が 5 頭と最も多く、次に腎不全が 3 頭、心不全が 1 頭であった。また、死因にかかわらず全例で尿道、膀胱、尿管内や膀胱内に結石が認められた（図 1）。肺炎の 5 頭は全例で頬腫れや歯周病の既往歴があり、歯周病と肺炎の関連が疑われた。

病変部から分離された細菌の変化

No.77 雌は、歯周病を繰り返し、治療が長期に亘ったため、感染菌の薬剤耐性獲得が懸念された。有効な薬剤を選択するため、病変の細菌検査を実施したところ、治療に使用する抗生剤に対する薬剤耐性を持つ菌が検出され、

時間の経過とともに菌の種類と、耐性獲得された薬剤の種類が増えた（表2）。

まとめ

- 最も治療の多かった疾患は歯周病であった。頬腫れや食欲不振など初期症状のうちに治療すれば、ほぼ回復した。
- 死因は肺炎が最も多く、次に腎不全が多かった。また死亡例全例から尿路結石が認められた。
- 歯周病を繰り返した例からは、時間の経過に伴い患部から分離された菌の種類が増え、薬剤耐性も増えたことが分かった。

以上、野毛山動物園のオグロワラビー (*Wallabia bicolor*) の過去5年間の治療振り返りを、5月の飼育研究会で報告したところ、飼育員の間では疾患をなるべく起こさない為の飼育管理、特に餌の工夫についての活発なディスカッションが交わされ、職員間での情報共有が深まった。

表1 治療個体の情報まとめ

個体番号	性別	年齢	平均年齢	誕生日	死亡年月日	死因	その他
66	♀	5	5.8	2008/7/10	2014/6/2	尿管結石、腸炎	1頭出産
78		10		2004/5/10	2014/8/24	肺炎	腎砂状結石、囊子落下
80		2		2013/9/25	2016/8/18	肺炎	1頭出産、左尿管結石
77		6		2011/1/7	2017/7/19	腎不全	3頭出産、両腎結石
79		12	-	2007/7/4	生存中	-	
72	♂	5	5.4	2010/5/1	2016/4/4	誤嚥、肺出血	左腎結石
67		8		2008/8/1	2016/12/2	化膿性肺炎	右腎結石
76		4		2012/2/13	2016/12/17	出血性肺炎	右腎結石
75		6		2011/8/3	2018/3/13	循環不全	左腎砂状結石
81		4		2014/5/23	2019/3/23	腎不全(膀胱炎)	尿道結石、腎結石

図1 No.77の腎臓断面の肉眼写真



表2 No.77の病変から分離された細菌の変化

検査日	菌名	薬剤*	
		感受性 (有効)	耐性 (無効)
2016/5/23	エンテロバクター属	TC, CAZ, CPMX	AMPC
2016/6/1	Ser.liquefaciens エンテロバクター属	TC, CAZ, CPMX	AMPC
2016/8/2	ブドウ球菌属	TC, ST, OFLX	AMPC, CEZ
2017/4/25	Citro. freundii ブドウ球菌属	実施せず	実施せず
2017/5/8	黄色ブドウ球菌	DOXY, CAZ	AMPC, ST
	シュードモナス属	DOXY	AMPC, CAZ, ST
	腸球菌	AMPC	DOXY, CAZ, ST

*アルファベットは薬剤の略号

【共同研究者】野毛山動物園 小野 香織、百武 真梨子